

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	総合演習 II		
担当者(Instructors)	白井 克尚	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)			
PBLの基礎、専門演習の入門と位置づける。PBLの例として、地域活動プロジェクト、地域スポーツイベントプロジェクト、学内イベントプロジェクト（大学祭、スポーツ大会、名東区民祭りなど）の活動がある。			

■ 授業形態・授業の方法 (Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	PBLの授業手法を取り入れて、チームで専門に関連する課題を設定し、解決する。その成果を学園祭などの機会を設けて報告する。

■ 各回のテーマとその内容 (Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	授業のオリエンテーションー教師・保育士にとって必要な表現力とはー	授業のオリエンテーションとして、教師・保育士にとって必要な表現力について考える。	<input type="checkbox"/>
第2回	地域との連携を通じた表現活動について	地域との連携を通じたワークショップ開発について理解する。	<input type="checkbox"/>
第3回	学級集団づくりと演劇	「集団づくりと演劇」に関するワークショップを行う。	<input type="checkbox"/>
第4回	劇指導の方法	「劇指導の方法」に関するワークショップを行う。	<input type="checkbox"/>
第5回	劇づくりの実践と授業	「劇づくりの実践と授業」に関するワークショップを行う。	<input type="checkbox"/>
第6回	劇あそびの方法	「劇あそびの方法」に関するワークショップを行う。	<input type="checkbox"/>
第7回	朗読、群読 話し方	「朗読、群読 話し方」に関するワークショップを行う。	<input type="checkbox"/>
第8回	演劇鑑賞教育のすすめ	「演劇鑑賞教育のすすめ」に関するワークショップを行う。	<input type="checkbox"/>
第9回	教師・保育士の表現技術	「教師・保育士の表現技術」に関するワークショップを行う。	<input type="checkbox"/>
第10回	うりんこ劇場における表現活動の計画	うりんこ劇場における表現活動の計画を行う。	<input type="checkbox"/>
第11回	うりんこ劇場における表現活動の準備	うりんこ劇場における表現活動の準備を行う。	<input type="checkbox"/>
第12回	うりんこ劇場における表現活動の練習	うりんこ劇場における表現活動の練習を行う。	<input type="checkbox"/>
第13回	うりんこ劇場における表現活動への参加	うりんこ劇場における表現活動への参加を行う。	<input type="checkbox"/>
第14回	うりんこ劇場における表現活動の振り返り	うりんこ劇場における表現活動の振り返りを行う。	<input type="checkbox"/>
第15回	授業のまとめー教師・保育士にとって必要な表現力について考えるー	授業のまとめとして、教師・保育士にとって必要な表現力について考える。	<input type="checkbox"/>

■ 授業時間外学習（予習・復習）の内容 (Preparation/review details)	
事前学習として、次回の授業を理解するために、毎回指示するテーマや課題を予め調べておく（2時間程度）。事後学習として、授業で扱ったテーマや課題について関連資料を参照しながら復習する（2時間程度）。	

■ 課題とフィードバックの方法 (Assignments/feedback)	
提出された授業の振り返りは、翌週フィードバックし、全体で共有する機会を持つ。	

■ 授業の到達目標と評価基準 (Course goals)		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)

知識・技能	◇ 2019全学共通DP1	教師・保育者として必要なコミュニケーション力について理解し、相手を意識して分かりやすく表現することができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019全学共通DP2	自らの考えについて、コミュニケーションスキルを駆使しながら、保育、教育の現場で自在に表現することができる。
主体性	◆ 2019全学共通DP3	さまざまな教育現場での課題に対して主体的になって向き合い、収集した情報を基に発表資料を作成し、相手にわかりやすい発表をすることができる。

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			60%	40%
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)				
課題提出をもって、出席とする。毎回の授業の振り返りから、授業への取り組みの様子を評価する。活動の様子から、教師・保育士にとって、必要な思考力・表現力・判断力が身についたかを評価する。				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業の中で、適宜紹介する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	平田オリザ『演劇入門』講談社現代新書, 1998年	
2	平田オリザ『演技と演出』講談社現代新書, 2004年	
3	平田オリザ・蓮行『コミュニケーション力を引き出す演劇ワークショップのすすめ』PHP研究所, 2009年	
4	中野民夫『ワークショップー新しい学びと創造の場』岩波新書, 2001年	
5	中野民夫『ファシリテーション革命』岩波アクティブ新書, 2003年	